

ニューチャレンジセッションⅡ：臨床利用の進歩

座長集約

ニューチャレンジセッションⅡ「臨床利用の進歩」は、臨床で実践される技術を4名の講師に講演していただいた。日本海総合病院の渋谷幸喜氏は、山形大学工学部と開発した石灰化除去フィルターの臨床応用について講演した。二次微分フィルターを組み合わせたソフトウェアで、石灰化の強い冠動脈の狭窄評価に有意であり、今後多くの施設で利用して評価していただきたいと結んだ。四日市羽津医療センターの磯部好孝氏は、凍結療法に着目して対象体の温度とCT値について研究し、その組成をIce-Mapとして表示する取り組みを紹介した。今まで温度とCT値に関する論文はほぼなく、今後の

梁川 範幸 東千葉メディカルセンター放射線部

さらなる研究に期待したい。当サミットの代表世話人である辻岡勝美氏は、CT画像を直接対象体に投射し、CTガイド下生検などに役立てる支援技術について解説した。すぐに臨床応用可能な未来型技術の典型であり、非常に興味深い。東海大学医学部附属病院の池田 秀氏は、線量が下がっても画質低下を招かない“CARE kV”による被ばく低減技術を解説し、dual energy技術を応用することで、さらに利用は広がると結んだ。4名の演者それぞれが現状で使用可能な技術とその応用を解説し、次世代CTの技術開発に役立つ材料であったと考える。

座長集約

今回のCTサミットは、次世代のCT技術に対するチャレンジがメインテーマであったが、筆者が担当するセッションは「臨床利用の進歩」というテーマで、臨床で活躍されている方々のアイデアに富んだ新しい臨床技術へのチャレンジを報告していただいた。その内容に共通していることが、有用な技術ではあるがCT装置メーカーやワークステーションメーカーがまだ行っていないことを大学の研究室と開発、または自施設でさらなる臨床応用のための研究といったオリジナリティの高い内容で、まさにチャレンジという言葉がふさわしいセッションであった。

平野 透 札幌医科大学附属病院放射線部

今回、4演題中3演題に関しては、職場での倫理の問題や臨床での精度、装置への導入などにおけるメーカーとの協議など、クリアしなければならないハードルが多いことを講演を聞いて感じた。しかし、アイデアなくして新しい技術革新は起こらないことを考えると、今回の演者の研究は間違いなく装置開発の一步を進んでいると思われる。今回、講演していただいた方々の研究が実を結び、近い将来、多くのユーザーが使用できる時が来ることを期待している。